

たより 「美紗の会」
ニユース 第27号

第十六回 おひきぞめ 二月八日浅草 細井にて

第27号

平成十年三月二十日

発行者

「美紗の会」

03-3441-2726

わが輩には試合の前とか、出演の前とかはやつぱり多少の畏怖心というか、びびり心がある。上石神井からの電車の中では新聞を読んでいたが赤坂見附で銀座線に乗り換えてからはピレコーダーのイヤホンが耳に入る。

地下鉄銀座線は昭和二年浅草へ上野間に開通した日本最初の地下鉄で、そのあと新橋へと伸びた。開通当初は地下鉄に乗るのをぴつた人が多かつたという。電車は浅草駅に着いた。松坂屋から馬車通りを渡る時に三昧線の音色が聞こえてきた。

浅草は江戸の市街地の外れで周りには田んぼが広がり、その中に吉原の遊郭や劇場街の猿若町があつた。芝居見物や吉原通りには馬や猪牙舟がよく使われた。馬道通りはその名残である。

江戸・明治・大正・昭和戦前と変わった浅草は雷門・觀音様・下町らしさ・祭り・観戸つ子・人情という古い日本、江戸の名残が息づく伝統的な町で東京の原点といえる町である。

推古天皇の三十六年（西暦六二八年）三月十八日墨田川で漁をしていた檜前浜成、武成の二兄弟が、その日に限つて一匹の魚も網にかからなかつたが、漁網の中から一寸八分の観音様を発見し、

土師直仲知が「今日の學識経験者が文化人に（日本人）に相談したところ、聖観音像の功德を説かれて自邸に觀音堂を建てて寺としたのが、淺草寺の起源である。直仲知が死んだあと、その嫡子の夢枕に觀音様が現れ「觀音堂の傍らにお前の親と二人の漁師を神としてお祀りしなさい。名づけで三社柱とすべし」との音様が現れ「淺草神社」の誕生のいきさつとして伝えられている。これが三社柱の大権現の祭礼即ち「三社さま」のお祭りの日である。

馬道通りから新仲見世通りに入り仲見世通りに出る。今日は日曜日で天気もよく人通りが多い。年間三千万人が訪れる浅草の中心街だ。もうちょっと行くと懐かしのロッカ座だ。今日の演じ物は観かな。チヨット待て、今日はは観きではないぞと右に折れ、伝法院、五重塔を右手に言問通りに出る。

仲見世の歴史はおよそ四百年で通りは雷門から宝蔵門まで三百メートル幅四メートル八十、両側に並ぶ店は本堂に向かって右側五十三軒、左側三の地主は浅草六軒ある。この仲見世の建物は東京都の所有で営業権のみ店が持っている。通りは石畳で明治十八年頃に敷かれたもので、その数は五千五百四十四枚といわれる。

九州の浪人が戦国期が終

今年の会場となつた「細井」は浅草地区の邦楽愛好家の方々の皆さんの、月例発表会の会場で、美紗の会のレベラアルプと友好親善を兼ねて合同でやろうということでここになつた。そして浅草細井の木下三名が高橋君、竹沢、木下の三人が出演する。美紗の会はゲスト出演の菊音さんを含め二十名が出演。美紗の会ではいつも横に開演前の団樂の席は、お茶とおちやけの複合となる。これも緊張を和らげる良薬か、

□に甘い。

さて、頃は午後二時を過ぎたところ、そろそろ始めましょうかとの会主の合図で司会の加藤さんがマイクを取る。今日の加藤さんは顔が少し小さくしまった感じで大変綺麗。あとで聞くと今までケイキを毎日三個食べていたのを我慢して体重を落としたとか。胸は落とすな。

今回は何故か「白扇」のお祝儀を省略。スターは何時もの通り会主の母上。一番初は緊張度が高いと思うが、「寒椿」を面白く唄う。つぎは

（主君の命令ですぞ）を瞑う
眞知子さん。腹に据わった低
音でベリーダンス。長唄調で
聞こえたが専門家の解説にま
かせる。

この後に川邊さんの登場。
髪を鬢風に結い黒紋付き風と
粋な装束で「理無なり」風と
「味」をきかせる。今日の料理の味はよかつた。この編集長は顔を合わせる所書いて、弱いわが輩はおひきぞめのあとも寝れないよ。今そのせい
で駄文に挑戦してゐるよ。

さてプログラムに戻ると赤坂組の世話役本郷の「勝名のり」
聞いていたが本番では低音にして最高に唄う。そして今年もニユーヨークから駆け付け高橋龍二さん。前日友國さんとの別荘で二人で特訓したんだとか。すんなりと入浴帰りの「湯上がり」と「春風がそよそよ」とを唱う。

ここで一眼、書く方も疲れた。誰か代筆を想わざる。この小休止の間、薄桃色の着物を召した妙齢の美人が愛想よく

間違つてたらゴメン。このあ
れ坂道組で、一番音源さんがあ
う「浜町河岸」と「夕立や
田」、糸はコンビとなつた大
久保さんと会主。糸の大久保
さんが河の稽古では巧く彈け
たんだけど、本番ではねえと
いついたが、こつちらほど
こが悪かつたのかわからんよ。
次は美紗の会で、何かで人気の
ある高木さん。糸は会主・増
田・日比野太郎さんの三名だ。唄
は「春浅き」と「心して」。

は体にいかんぞ（胃・肝臓）
の途中に自己紹介の番組があり、出演者以外の参会者を紹介する。
まず会主の友人でイタリア在住の画家の友人和佐田さん。稽古を始めたる予定とか。そして体調のところを尋ねた河北さん。稽古は丹那を殺つてから（空耳か）再開しますと曰うた。女は恐い。毎晩のお楽しみの恩返しがある。次に冰野娘の若いお母さん。あなたの出演前は案じていたが終わつたあとはすっかりリラックス。最後は邦楽の愛好家と山形さ。素道五段の前で友国さんのボディガード兼運転手の仕事。ビデオにも趣味があり前回に続いてカメラマンを勤めた。前回は失敗作とも云ふべきだ。
宴もいよいよクライマックス。わが輩は夢の座敷。大勢の芸者衆に囲まれて注しつけられつアレワイイサノサのお楽しみ。
この駄文を読んだ人も書いた人もお疲れさん！
(わが輩はXである)

わざで間をない江戸の町で辻斬り、試し斬りを続けてきたが、その非を悟り自らの像を石に刻んで雷門のあたりに万人に踏みつけられたが石畳の元といふ古い話もある。

言間通りを渡れば憧れの葭原だ。ゆこうか戻ろうか、戻るやうかこか、ええ、ままで。昔はこの一帯にヨン(アシ)などが繁茂していたのでこう呼ばれたが、のちに縁起のいい「吉原」に字が変わった。あの太夫はとうしてもいるかなア。そんな夢想の間も無く細井についてた。ふぐ活魚と看板にある。長い間ふぐ料理にありついていないなア。

「春風」
山根さんと弾き終わったあと
ヤレヤレとした気持ちは伝わ
る。カムバツクお目出度う。
この後は男性のトップバッ
ターや、二回目の出演となる友
国さん。大変落ちついて「こ
の先に」「つからうから」を
上手にこなす。努力と年の功、
年は聞かない。
鈴木さんが所用で不参加と
なった日の美女々々コンビの照
日比野さんの登場。相方の照
沼さんが仕事の関係でブログ
ラムで載らなかつたのは残念。
しかし日比野さんが、「今日
もまた」、「男ですもの」を
しつかり唄われましたぞ。そ
して山根さんが唄う「紀伊の
出来たよ。彼女はお転婆で
続いて松岡さんの弾き語り、
「玉川」。中止遊びでお忙し
いウーマン。稽古する間がな
いとかおっしゃるが、うまく
返つた。でもあとで凄いこと
を云つたヨ。

司会者の順となるが、今日は何とかで会主が代わりに聽かせるのである。『茶の心』がおさぼり心に変わる。そして九歳の水野姫の糸による会主が唄う「お伊勢參り」。「お江戸日本橋」も若干延びたがよう頑張つた。お伊勢参りが出来た。続いて十五周年を病氣で欠席し今回も練習期間が短いが、何とかで会主が代わりに聽かせるのである。『茶の心』がおさぼり心に変わる。そして九歳の水野姫の糸による会主が唄う「お伊勢參り」。「お江戸日本橋」も若干延びたがよう頑張つた。お伊勢参りが出来た。続いて十五周年を病氣で欠席し今回も練習期間が短いが、く皆さんにそしてわが輩にも挨拶したが、誰だつたけな。これからんけど相手がこっちを知つてんだから愛想よくお返しをしたよ。あとで名前を聞いて想い出しだが、平成二年のゆかたざらいのプログラムに唄、河北「文月」。『夏の暑さ』とある。ご主人が独逸人で翌年からドーピンにいたつた。七十年振りに帰国した

基生、竹沢、木下の三名が唱う。三人三様の特徴のある声で慣れた眼の方をする。この中からもう一曲、吉田の「古に勧まなくちや。いよいよ」が、演目も千秋楽。ゲスト菊音さんの「初出見よとて」と「吉三節分」、立方・花柳千寿文師匠、糸会主。踊りの一つの仕草に表現があると聞かが、「こちどらまわからぬね」という。

今年の二月は美納の会の本郷さんの弟さんであられる虹染め作家、本郷大田子氏の御長男の披露宴に招かれ、十年ぶりに京都へ行つた。

新しい人生の門出を祝つて想い出に残る宴にしてやりたいとの大田子氏のお言葉通りお仲人による新郎新婦の紹介のあとは、従来のようななびーチは一切なく、金剛流一門による祝言能「猩々」、私こと西松布咏の「白扇」や、「梅にも春」、三好荒山師の尺八「鶴の巣ごもり」、そして最後は、花柳流の名取であられる大田子氏夫人による長唄「末広狩」の踊りが披露された。昨今は、簡単に略式でとか、外国の教会でといった結婚式が多い中、代々の伝統芸能を引継ぐ若き染色家の門出をこのような形で祝福なさつたご両親の愛情あふれる演出に胸をうたれました。

伝統芸能は、このよつに慶弔の時に披露され語り継がれていたのである。久方ぶつ

早春に想うこと

西松布咏

よみがえつたかのようだ。一瞬
床の間に結び柳が生けられた座敷に通された私の隣は、
アメリカミネソタ生まれの版
画家クリフ・カーフ氏。昭和
二十年に来日して以来、京
都・金沢に住む筋金入りの親
日家である。先代の大田子氏
に着物の良さを教わってから
一年中着物で通し、洋服は
持つていないと。『日本は、
外国にはかり目を向かないで、
もつと世界に独自の素晴らし
い文化をアピールしなければ
駄目です』と流暢な日本語で
叱咤激励されてしまった。昔
から茶屋遊びはお大尽遊びと
言われるが、客と芸妓がお酒
を飲みながら互いの芸を披露
し、批評しあつて三味線音樂
や踊りが盛んになっていった。
その日も、まだ半玉になつ
たばかりという十代の芸妓が、
緊張の面持ちで「重ね扇」を
踊ってくれた。
そばで女将が心配そうに、
一挙一動を口うるさく教え、

披露宴が終わつた夜、大田子氏が私達を上七軒の「吉田屋」へ連れていくて下さつた。タクシーを降りると、うす暗い路地にぼんやり格子先の灯だけがゆらいでいる玄関。まさに江戸時代にタイムスリップしたかのようである。中に入ると畳の敷いてある玄関先に、夜目にもあでやかな芸妓さんが「おいでやす」と三つ指ついて迎えてくれた。唄をうたう時想像する江戸の世界が、まさに、目の前によみがえつたかのような一瞬だった。

今までのわざかな時間、北野天満宮へ。春を思わせる暖かく陽さで梅のつぼみがほころび、馥郁とした香りが漂う中、一对の牛で牛のおりしりをなでたり、いくつもある神社に何度も手を合わせた。学問の神、菅原道真が祭つてある神社らしく、受験生や子供、孫の為に一心に祈つてゐる年輩者の姿が印象的だつた。私も数ある神社の中で、猿田彦社といふ芸能上達の神に芸の精進を願つた。時間まで近くの路地を散歩したが、古い町並がひつそりと息つき、いつまでもこの町にいたいと思ふ。思い、偶然見つけた上七軒歌舞練場の中へそつと入つた時、昨夜の舞妓さんの面影がなつかしく目に浮かんだ。

いながら舞い、わが美紗の会の本郷さんが、私の糸で小唄を朗々と唱う。宴会につきもののカラオケがなくとも、障子からしのび寄る夜のじまを背景に、京都のひとときの宵をなごやかに過ごした。江戸の音樂をなりわいとしている私が、ともすると過去の幻影としか思つていなかつた世界を目のあたりにして、浮き世を忘れ遊ぶことの意味をもう一度考えてみようと思った。翌日は帰京までのわずかな時間、北野天満宮へ。春を思わせる暖か

目立つの大ぐさめ

ジョン・ソルト

させていました。
布咏さんの伝統的な唄と三味線が前衛的な方法で、たえず実験的に行われていることについても驚いており、たとえば、浮世絵と共に、三味線で唄うたれたの試みで、少なくとも今までに日本のどこかで行ったた
いう話を日本は聞いていません。
私が日本語で一時間以上も観衆の前で話したことも初めてでしたのが、二百人の観衆が一人も立ち去らなかつたのでほつとしました。
正直に言うと、プラネタリ
ニンムの座席は自由にリクライ
ナーチャーになり、ライトは暗
かつたので、どの位の人々が
眠つていたかは定かではない
のですが。
ここではスライドもないの
で、詳しい話はしませんが、
百二枚のスライドを見せ、そ
の合間合間に布咏さんの唄を
散りばめました。私は、何枚
かの浮世絵の重要な個所を示
せるよう、レーザー棒を使
い、「一、二、三分ずつ話し、布咏
さんは、五枚から十枚のスラ
イドが次々と映される中で
唄つてゆきました。
浮世絵スライドの多くは、
布咏さんの唄とびつたり調和
し、より一層江戸時代の風俗
がよみがえり、とてもファン

私は以前、何回か日立を訪ね市長を交えた人々と、個人的な「お座敷」の経験があつたので、すでに十人程の友人がいました。アムハーリスト大学のミード美術館に寄贈したニューヨークに住む八十三歳のウイリアム・グリーン氏の浮世絵コレクションのスライドを披露する機会を得たことは嬉しかったけれど、再び友人に逢えた私はが尊敬することは、もつと大きな喜びでした。

布咏さんは、サイレンのように美しい声の持主で、十年前のコンサートで初めて聞いてから、ずっと私を夢中にさせていました。味繩が前衛的な伝統的な唄と三昧繩が前衛的な伝統的な唄と三

舞台に立ち、公演（サンボンサン）はただきました。スボンサンには今回のように十枚含まれていた素晴らしい浮世絵コレクターである高橋氏の会社「金馬車」でしたのが、いよいよ社長は東京へ仕事があり、彼の御子息の副社長が、私達をいたしまして、口調で紹介して下さいました。

今回の企画は、「金馬車」の創立四十周年記念行事として催されました。不景氣な昨今、このようない実験的なイベントを後援して下さる会社は極めてまれで、「金馬車」の歴史と奉仕の心で、この公演が出来ることは素晴らしい公演だと思います。それと同時に、新社屋の一階の広いスペースに市民の為のオーブンギヤラリーが設けられたことも多い

四月十日　ウエスリン大学志学堂において
アズ　ゴーン　アズ　ビフォア
(as gone as before)
詩十三味總ナバーカンションのタベ
詩十五味總ナバーカンションのタベ
五月十日　お江戸日本橋亭　一・三〇より
初夏のおとすれ　「日本の音と踊りを楽しむ」
　　「ぐわい　ゆきさ」
(坂東由紀之丞による舞の地方演奏)
五月二十九日(木)～三十一日(土)
第二十回　日本文化デザイン
会議(秋田)
三昧線のエロス～浮世絵の世界
共演・浅葉克巳、照沼太佳子、
ジョン・ソルト
六月四日　華の会～閑崎ひで女一門の会、
国立小劇場
C D S I L K S O U L
近 日 発 売 !
すでに発売されたカセット・
テープ「SILK SOUL」
の改訂版であらたに「ぐわい」
を加え、「ゆき」、「黒髪」、「名
護屋帶」、「ぐわい」、「柳々」を再
録音いたしました。皆様是非、
お聞き下さい!

私の友人であり、川柳の師でもある滝谷さん、その中のひとりです。彼は昨年、全国俳句コンクールで優秀賞を得ました。私はその句がとても素晴らしいと思いました。
写楽貌に大きさめを放ちたり
Like a SHARAKU
Face he Let, s
Fry a h u z y, S
n e e z e
写樂のこととて、又浮世絵の話に戻りました。
それでは、布ぬさんに「大きさめ」の眼を唄つていただきましまよ。――
今後の予定

タステイツクでした。
公演後、私は多くの人
ライドを観ることで、一
の世界を体験してしま
う

い関心を持つています。日立は鋭い切口で実験的な試みをすることで、時々、大観衆を呼ぶなど、かなりリスクを負う

四月十日 ウエスリン大学志学堂において
アズ ゴーン アズ ビフォア
(as gone as before)
詩十三昧線+パークッシュンのタベ
五月十日 お江戸日本橋亭 一・三〇より
初夏のおとすれ
「日本の音と踊りを楽しむ」
「ぐち」「ゆき」
（坂東由紀之丞による舞の地方演奏）
五月二十九日～三十一日 第二十回 日本文化デザイン
会議（秋田）
三味線のエロス+浮世絵の世界
共演：浅葉克己、照沼太佳子、
ジョン・ソルト
六月四日 華の会～閑崎ひで女一門の会、
国立小劇場

CD SILEK SOUL 近日発売!
すでに発売されたカセット・
テープ「SILEK SOUL」
の改訂版であらたに「ぐち」
を加え、「ゆき」「黒雲」「名
護屋帶」「ぐち」「柳々」を再
録音いたしました。皆様是非、
お聞き下さい!